

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人宝塚市文化財団	
施 設 名	宝塚市立文化施設 ベガ・ホール	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	2,639	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,639 (千円)

## 1. 事業概要

### (3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オルガン・チェンバロ普及公演(市民のためのオルガンコンサート)	通年(全9回)	ホール所有のオルガン、チェンバロを活用したコンサートシリーズ。 出演:久保田真矢(パイプオルガン)、中嶋寄恵(チェロ)、中田聖子(チェンバロ)ほか	目標値	のべ 1,320
		宝塚ベガ・ホール		実績値	のべ 1,657
2	第43回ベガメサイア	令和5年12月9日(土)	公募の合唱団とプロオーケストラによるメサイアの全曲演奏。 出演:高曲伸和(指揮)、テレマン室内オーケストラ、 松岡万希(ソプラノ)、増渕弥生(メゾソプラノ)、眞木喜規(テノール)、田中勉(バス)、 ベガメサイアを唱う会(合唱)	目標値	250
		宝塚ベガ・ホール		実績値	344
3	アウトリーチ事業 (アーティスト派遣による普及事業)	通年(全14回)	学校、幼稚園等へのアーティストの派遣。 出演:横沢道治(打楽器)、木村和人(打楽器)、中田潔子(ヴァイオリン)、中田真理(ピアノ)、菊武粧子(箏)、井本蝶山(尺八)ほか	目標値	宝塚市民、市内幼稚園児・小学生のべ 1,130
		宝塚市内小学校、幼稚園、市議会議場		実績値	1,160
4	千住真理子ヴァイオリンリサイタル	令和5年10月7日(土)	国内外で活躍するアーティストによる公演。 出演:千住真理子(ヴァイオリン)、山洞智(ピアノ)	目標値	360
		宝塚ベガ・ホール		実績値	380
5	0歳からのクラシックコンサート	令和5年7月28日(金)	夏休みの親子向けコンサート。出演:須山由梨(ピアノ)、中谷友香(ピアノ)、光本諭史(打楽器)、藤野直(司会・進行)	目標値	520(1公演260)
		宝塚ベガ・ホール		実績値	496
6	宝塚ベガ音楽コンクール入賞者によるコンサート(おかえりクラシック)	令和5年9月29日(金)	過去のコンクール入賞者による公演。 出演:柘貴志(バリトン)	目標値	150
		宝塚ベガ・ホール		実績値	138
7	ジェイコブ・コーラーピアノソロコンサート	令和6年1月13日(土)	YouTube登録者数55万人超の超絶技巧ジャズピアニストによる公演。 出演:ジェイコブ・コーラー(ピアノ)	目標値	250
		宝塚ベガ・ホール		実績値	388

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

ベガ・ホールは、市内の音楽関係団体や愛好家から「宝塚を音楽のまちに」という気運が高まる中、本格的な音楽ホールを望む声が強まり昭和55年に建設された。以来宝塚市の音楽文化振興の拠点として、長く演奏家や市民に利用されている。

#### ■■ 宝塚ベガ・ホールのミッション ■■

##### 「音楽のまち・宝塚」を実現するために音楽文化を振興する

- 音楽を演奏、鑑賞する喜びを提供する
- 室内楽・合唱・パイプオルガンなどのクラシック音楽をはじめとする多様な音楽の普及、発展に貢献する
- 未来を担う新進演奏家を育む
- 音楽を通じた交流機会を提供する
- 音楽によるまちのにぎわいを創出する

宝塚市の第2次文化芸術振興基本計画で示された方向性を受けて、小規模な音楽専用ホールである特性や地域の歴史的な背景から5つのミッションを定め、それに基づいた事業計画を策定。「宝塚ベガ音楽コンクール」「宝塚国際室内合唱コンクール」（両コンクールとも助成対象事業外）など音楽分野の人材育成や音楽を通じた交流に取り組むほか、普及啓発事業の公演内容充実、向上を目指して事業を計画。ほぼ当初の予定通りに計画を実施することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

#### 【文化的意義】

ベガ・ホールは阪神間の公共ホールでは唯一のパイプオルガンを有しているが、チェンバロも併せて公演機会が少なく、公演の際は宝塚市民のみならず遠方からの来場も少なくない。年間を通じて公演を継続して定期的開催することで、ホールが保有する楽器を宝塚市民だけでなく他市にも広めることができたほか、アンケートでは「パイプオルガンの響きが素晴らしい。宝塚市にあり喜ばしいことです」等の感想があり、宝塚市の貴重な財産であることを市民に知っていただくことができています。

#### 【社会的意義】

子どもたちを中心に市民への文化芸術の普及を図ることと地域で活動する実演家の育成を目的として、アウトリーチ事業を実施。子どもたちへのアンケートでは「やっぱり生で聴くと、スマホで聴くのとは迫力がちがってすごいと思いました」等の声が多く見られ、生で聴くことでしか感じる体験を子どもたちに提供することができた。これまで収入が見込めない事業のため、開催回数が限られていたが、助成金を得ることでより多くの子どもたちに生の音楽に触れる機会を提供することができた。

#### 【経済的意義】

ベガ・ホールのある「清荒神」駅前商店街、参道商店会と提携し、相互にPRすることで、公演前後の食事やお土産購入などでの利用を促し、清荒神地域のにぎわいと経済波及効果を目指した。来場者へのアンケートから、市外からのお客様も多く、公演の前後に近隣で飲食を楽しんだ方も見られ、周辺地域のにぎわいに寄与することができた。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

当初に設定した目標は以下のとおり。

#### 目標①普及啓発事業の公演内容の充実、向上を図る。

イ) 来場者アンケートの「よかった」の割合について 82%以上を目指す。

ロ) 来場者アンケートの「良くなかった・無記入」の割合について 13%以下を目指す。

→達成状況 イ・ロとも達成できた。(アンケート結果より、イ 86.2% ロ 7.1% (良くなかった 0.3%・無記入 6.8%))

#### 目標②芸術鑑賞を行う人の拡大を図る。

イ) 来場者アンケートの「初めて」の割合について 26%以上を目指す。

ロ) 来場者アンケートの「2回目」の割合について 12%以上を目指す。

→達成状況 イ・ロとも達成できた。(アンケート結果より、イ 38.1% ロ 20%)

#### 目標③子ども達に文化芸術鑑賞及び体験機会を提供し、文化芸術への関心を高める。

イ) アウトリーチ事業アンケートで「コンサートに行きたくなった」の割合について 40%以上を目指す。

ロ) アウトリーチ事業アンケートで「楽器を演奏してみたい」の割合について 60%以上を目指す。

→達成状況 イ・ロともに達成できなかった。(イ 36.6% ロは 56.8%)

#### 目標④公演活動を通して、まちのにぎわい及び経済波及効果を高める。

公演アンケートを実施する際に、交通費、飲食費、グッズ購入費、市内での消費額を調査し、現状を把握する。

→達成状況 公演来場者へのアンケートを取り、結果から来場者の 52%が「公演前後で飲食もしくは買い物をした。」と回答した。

目標①に関しては、3年間(コロナ以前の平成29年～令和元年)の平均値は、「よかった」…80.4% / 「良くなかった・無記入」…12.5%。令和5年度は「良かった」86.2%、「良くなかった・無記入」が7.1%(0.3/6.8)で、指標の平均値を上回ることが出来た。

目標②についても3年間の平均値は「初めて」…25.3% / 「2回目」…10.9%。令和5年度は「初めて」38.1%・「2回目」20%で、どちらも指標の平均を10%以上上回ることが出来た。公演内容が充実しており高い評価を得られたことと、ジャズピアニストのジェイコブ・コーラーによるピアノソロコンサートのような、クラシック音楽とはジャンルの異なる公演を行ったことにより新たな来場者の拡大が図れたものとする。

目標③は未達に終わったが、3年間の平均値「コンサートに行きたくなった」…33% / 「楽器を演奏してみたい」…51%の実績数値は上回った。アウトリーチに参加した子ども達のアンケート回答から、生の演奏を身近に聞く体験から、感性を揺さぶることが出来ているため、今後その経験を次のアクションに進めるための後押しが必要と考える。

目標④にかかるアンケートの結果からは、来場者の半数以上が食事などで消費活動を行っている実態を把握できた。金額は1,000円～2,000円が多く、公演前後で軽く食事をする人が多い傾向であることがわかったため、今後は会場近辺での飲食、物販などの情報把握、提供についても取り組み、周辺地域のより一層の活性化に寄与したい。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

各事業で進捗管理を適切に行い、新型コロナウイルスの影響もほぼ無くなったため、概ね当初の計画通りに進出した。事業のスタートに際し、販売促進活動なども含めた事業毎の企画概要をまとめて全体で共有。チケット販売を伴う事業については、チケット販売計画を作成。週に1回の販売集計を共有し、管理を行った。

なお当初の助成金交付要望書において、事業番号3の「アウトリーチ事業」を学校で9回、公園、商業施設、議場で5回開催予定として計画していたが、コロナが落ち着きを見せるなか学校からの要望が多かったため、学校開催を13回にし、その他の会場での開催を助成対象としては議場での1回にとどめた。なお、商業施設での開催は別の助成金を活用して実施、公園での開催についても開催日が助成対象期間から外れたため、対象外事業として別途取り組んでいる。

また事業番号5の「子ども向けワークショップ型コンサート」を計画していたが、未就学児を含めてより多くの方に参加してもらいやすい「0歳からのクラシックコンサート」に企画内容を変更して実施した。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初の予算編成と執行プロセスにより適切に進行した。事業費の支出にあたっては、進捗状況の変化にフレキシブルに対応できるよう、制作担当とプロジェクトリーダーが都度協議の上で執行。年度の半期で個々の事業における収支決算見込みを出し、全体を見通して軌道修正ができるようにした。

当初計画との事業費の乖離については、新型コロナウイルスの5類感染症移行により、計画段階での収入見込みとして想定していた以上にお客様の来場意欲が高く、チケット販売が好調であったことと、見込んでいたPR費用などを支出せずに済んだことなどが大きな要因として挙げられる。このため収支バランスも大きく改善した。その一方で、スタッフの中にはコロナ禍を経て集客そのものへの慎重さや戸惑いなどもあり、助成金を上手く活用できなかった部分もあったと考える。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

ベガ・ホールは 1980 年、西日本の自治体で初となる音楽専用ホールとして、阪急宝塚線の清荒神駅前に開館した。壁面は 1 枚ずつ手割した赤いレンガ造りで、音の良さには定評がある。また 372 席と小規模ながら、開館翌年にはスイス・クーン社製のパイプオルガンを設置したほか、コンサートグランドピアノ 4 台とチェンバロを備えている。

このようなホールの特性を活かした公演のほか、「宝塚ベガ音楽コンクール」、「宝塚国際室内合唱コンクール」の 2 つのコンクールを 30 年以上に亘って継続開催し、音楽分野の人材育成、音楽による交流に取り組んでいる。

ベガ・ホールでは、「3 つの間づくり」という方針を定めており、「人づくり（人間・仲間）」、「機会づくり（時間）」、「場づくり（空間）」という 3 つの観点から地域に根ざした音楽ホールとして事業を展開しており、宝塚市の文化拠点としての機能を大きく発揮し、その存在感を高めることが出来た。

#### ○人づくり（人間・仲間）

「アウトリーチ事業（事業番号 3）」

コロナ禍で生の芸術に触れる機会が失われる中、特に子ども達の身近な学校現場へ出向き、演奏家がパフォーマンスを披露することで、大いに子どもたちの感性を刺激することが出来たと考える。

「宝塚ベガ音楽コンクール入賞者によるコンサート（事業番号 6）」

声楽家・榎貴志（第 19 回声楽部門第 1 位）の公演を開催し、その後の成長と活躍ぶりを宝塚市民に紹介することで、「宝塚のコンクール出身者」として市民から応援してもらえるような関係づくりを進められた。

#### ○機会づくり（時間）

「千住真理子ヴァイオリンリサイタル（事業番号 4）」「0 歳からのクラシックコンサート（事業番号 5）」

「ジェイコブ・コーラーピアノソロコンサート（事業番号 7）」

ベガ・ホールは小規模なクラシック音楽の演奏に最適なホールで多くのファンを持つが、まだまだ敷居が高いと思われがちであり、ホール来場の第一歩として上記の公演を開催した。メディアへの出演も多く幅広い層から支持を集めるヴァイオリニスト・千住真理子のリサイタル、未就学児連れでも来場可能なコンサート、YouTube のほかテレビでも活躍するジャズピアニスト・ジェイコブ・コーラーのコンサートなどを開催、世代間においてテレビ、SNS など触れるメディアが異なり興味や関心が異なる中、初めてのお客様に向けてベガ・ホールへの来場の機会を作ることが出来た。

「オルガン・チェンバロ普及公演（事業番号 1）」

オルガンは関西を中心に活躍するオルガニストのソロ以外にもチェロ、マリンバと共演する公演も開催、チェンバロもファゴットとの共演を行うなど、バラエティに富んだ内容を企画。ホール所有の楽器を紹介し、オルガン、チェンバロを活用した多様な公演を身近に提供することが出来た。

#### ○場づくり（空間）

「ベガメサイア（事業番号 2）」

合唱団を公募し、指揮者・高曲伸和とテレマン室内オーケストラ、関西で活躍するソリストと共に同じステージで演奏。音楽を通してプロのアーティストとアマチュアが交流する機会を持つことが出来た。加えて公演前後には、近隣の飲食需要も増加するなど、音楽を通じたにぎわいづくりにも貢献することが出来た。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

「アウトリーチ事業（事業番号3）」「0歳からのクラシックコンサート（事業番号5）」においては、地域で活躍する演奏家を積極的に登用することで、活躍の場を上げると共に演奏家自身のスキルアップにも寄与している。またその公演内容については制作担当者が演奏家と協議し、毎年ブラッシュアップを重ねる全くオリジナルのものであるが、「アウトリーチ事業」の場合はそこに公演会場となる学校の先生との協議も加わり、よりクラシック音楽に楽しんでもらえるように工夫を凝らした。

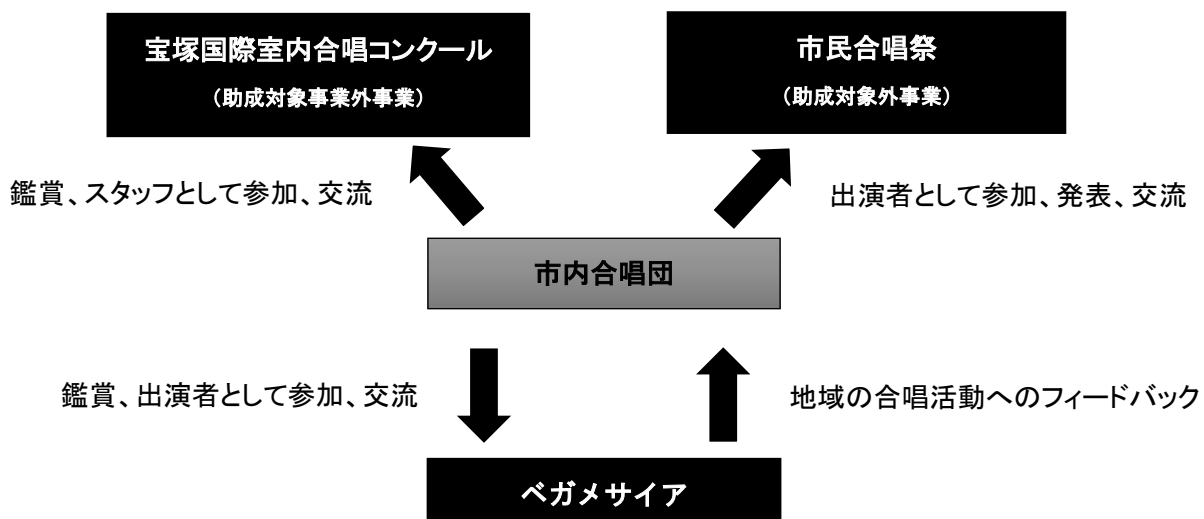
「アウトリーチ事業」は当初9校での開催を予定していたが学校からの開催希望が多く、結果として13校で開催し、学校現場のプロによる実演機会のニーズの高さを改めて窺い知ることが出来た。

また、入場料収入などが見込めないため、今後の事業継続のためにホールが助成金の獲得に向けて取り組むだけで無く、学校に対しても文化庁の芸術家派遣事業についての情報提供や、申請手続きの支援・相談等を行い、学校現場と協働して子ども達の芸術体験をバックアップする体制づくりを進めている。その他にも基金の積立や寄付を募るなどで、事業財源の確保を目指した取組を行っている。

学校へのアンケートでは、「生の音を聴く、貴重な体験となった」や「本物の楽器、本物の音に触れる機会出会えたことに感動です」という感想が多く、また参加した子ども達の感想にも「やっぱり生で聴くと、携帯で聴くとは迫力がちがってすごいと思いました」や「高い音がとても響いてきれいでした」等が多くあり、生で聴くことでしか感じる事が出来ない体験を子どもたちに提供することが出来た。同時に、子ども達の感性を高め、音楽に興味・関心を持ってもらう良い機会にすることが出来たと考えている。

「ベガメサイア（事業番号2）」は、オルガン、チェンバロを所有する音楽専用ホールの特徴を活かしたベガ・ホールの看板事業で、公募により結成した「期間限定」の合唱団がプロの指揮者・声楽家・オーケストラと共に同じステージに立ち、ヘンデルのメサイア全曲演奏に挑戦した。

宝塚市は「宝塚国際室内合唱コンクール」を長く開催し、秋には市内のアマチュア合唱団が2日間に亘り「市民合唱祭」を開催するなど合唱熱が高い地域であるが、ベガメサイアへの参加は指揮者によるオーディションを経ることでより意識の高いメンバーが集まり、その経験が地域での合唱活動へフィードバックされることで、ホールを核とした、地域の文化芸術の発展に繋がったと考えている。



## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 【事業運営】

助成対象である7事業を全て予定通り実施した。事業を通して多様な音楽を提供し、音楽を通じた交流や賑わいを創出したことで、市民の文化活動がより活性化する土壌を育むことが出来、持続的発展につながったと考える。なお個々の事業運営にあたっては、事後に担当課にて振り返りと事業評価を行った上で次年度以降の実施に向けた準備を進め、事業計画編成時期には、全事業について個々にヒアリングを実施して内容の充実を図っている。

#### 【経営戦略】

宝塚市が策定した「宝塚市文化芸術振興基本計画」の方向性に沿った形で、音楽専用ホールとしてのミッションを策定。市と緊密に連携して安定的に文化芸術のまちづくりを牽引している。収入の基盤である指定管理料を確保した上で、施設利用料の増収への取組、会員制度の見直し、寄付金・協賛金の受け入れ、助成金の獲得に注力することで、収入の多角化による経営の安定化につなげている。

#### 【人事戦略】

安定した事業運営を持続、発展するためには、専門人材を継続的に確保することが不可欠と考え、安心して長く勤められる環境づくりを行っている。年度の初めに全職員による全体研修を実施し、組織としての方向性や目標を確認している。職員はその内容や管理職が設定する目標を踏まえ、業務の目標設定や評価を行い成果のチェックをしてモチベーションの維持に努めている。

#### 【ネットワークの構築】

公立文化施設協会での施設間の情報交換に加え、ベガ・ホールでは地域において多様な分野と連携し、地域の人的資源との協働による事業運営を行っている。公演のレセプションистとして市民ボランティア団体に協力いただいており、月1回定例連絡会を行って事業の改善に取り組んでいるほか、市内文化団体との事業の共同運営や近隣の商店街、飲食店との相互協力、商工会議所、自治会への加盟などを通じてネットワークを拡張している。また、地域の教育機関との連携も強化しており、県立西宮高等学校音楽科、神戸女学院大学音楽学部とは共同で公演を実施したほか、大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション専攻と阪急宝塚沿線8ホールが連携する「阪急宝塚線ミュージック駅伝MOT!」の実行委員会に参画し、「オルガン・チェンバロ普及公演（事業番号1）」のうちの1公演を参加企画として実施した。

#### 【PDCAサイクルによる改善】

事業開催時のアンケート結果に加え、レセプションистとして参画している市民ボランティア団体のスタッフと担当者による、公演当日の反省会での意見などの現場からの情報を元に、ボランティア団体との定例会、全セクションのリーダーで構成する経営会議などへの報告を経て現場へ改善点などをフィードバックし、次回以降の事業運営につなげている。